

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

#### <概要>

- 研究課題名：「肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン普及後の小児潜在性菌血症についての検討」
- 研究期間：臨床研究審査委員会承認日～西暦2024年3月31日までを予定しています。  
対象：2016年1月1日～2021年12月31日に兵庫県立尼崎総合医療センターの小児科、小児循環器科、小児救急科のいずれを受診した、または入院した患者さんで、血液培養を採取した症例。  
ただし、以下の患者さんは研究から除外します。
  - ・血液培養が陰性の症例
  - ・血液培養から検出された細菌が汚染が疑われる細菌（バチルス属、コリネバクテリウム属、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌、ミクロコッカス）の症例
  - ・カルテ上、感染のフォーカスが明確に記載されている、または、検査上明らかな症例
- 研究目的：肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン導入以前は、救急外来を受診する小児の中に特定のフォーカスをもたない菌血症（潜在性菌血症 Occult bacteremia: OB）が一定数存在し、一部が敗血症や髄膜炎を引き起こしていました。そのため、OBのハイリスクにあたる小児には血液検査を施行し、白血球が高値、または低値の場合は抗菌薬を投与する必要性がありました。しかし、肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン導入により小児の菌血症疫学は一変し、もはやOBを疑って血液検査をする必要はないとされています。しかし、ワクチンが広く普及した現在でも、まれにOBはみられます。そこで、当院で診療したOBを後方視的に検討し、OBの疫学を調査します。  
方法：電子カルテを用いて、患者ID、生年月日、血液培養施行年月日、性別、月齢、背景疾患、白血球数、好中球数、CRP値、予後を抽出、解析します。研究結果は学会および論文にて公表させていただきます。
- 個人情報：臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。

問い合わせ先：兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町2-17-77

TEL：06-6480-7000 FAX：06-6480-7721

MAIL：stone.bagle@gmail.com

研究責任者：日馬 由貴